

川崎市洪水ハザードマップ 中原区版



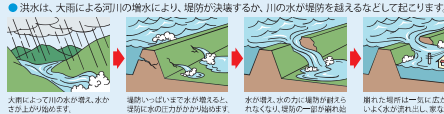
「意識と準備が命を守る！」

洪水ハザードマップは、想定し得る最大規模の降雨によって川川が氾濫した場合の、洪水浸水想定区域や避難場所を示したものです。



洪水から身を守る

① 洪水発生メカニズム



② 洪水浸水想定区域の考え方

すべての破綻点(堤防が決壊すると想定したところ)について、どう氾濫し浸水するかを予想します。すべての予想結果を重ね合わせ、最大の区域と深さを表示しています。実際は、それのうち開けた箇所が氾濫し、浸水区域が広がり、徐々に深くなります。

③ 都市型水害について知る

大規模な洪水以外にも、都市は舗装された道路や宅地が多く、降った雨が地中に浸透しにくいため、川や水路、下水と一緒に集まります。そのため、次のような危険がありますのでご注意ください。
(建物への浸水)
・低地や道路のアンダーパス(地下)に雨水が溜り、車が立ち往生し水没する危険があるため、通らないでください。
・地下への浸水
・地が陥没すると、水圧でドアが開かない
・一気に水が流れ込む
・外の様子から分らず逃げ遅れる
など、何にもなる危険があるため、早めの避難が必要です。
(中小川の増水氾濫)
・断崖の崩落は、急に増水し、流れが速くなり、氾濫するおそれがあります。
・崩壊が広範囲に及ぶ、大雨のときは近づかないでください。
(遊水地の浸水)
・遊水地に洪水がたつ際は、大雨ととも、ふたたび浸水するおそれがあります。事前に確認し、避難することの可能な所は避けよう。
・過去の浸水(浸水履歴)については、川崎市防災情報ポータルサイトで確認できます。

④ 洪水からの避難

洪水の危険が迫った際には、川崎市を対象の地域に避難を呼びかけます。お住まいの環境によって、適切な避難行動に違いがありますので、右ページの判断フローを参考に、ご自身の避難行動や避難先をあらかじめ検討しておきましょう。

⑤ 雨の降り方と災害発生との関係

Table with 2 columns: 雨の降り方 (Rainfall intensity) and 災害発生時のリスク (Risk of disaster occurrence). It details risks for different rainfall intensities from 10-20mm to 80mm or more.

かけ崩れから身を守る

① 土砂災害警戒区域

土砂災害防止法(平成13年施行)に基づき、土砂災害の発生が予想される区域として、一定規模を超える斜面及びこれに接する区域を、神奈川県が「土砂災害警戒区域」に指定しました。
【指定基準】急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)
① 標高超過30m以上で斜面勾配10%以上の区域
② 多摩川流域の土壌から水平距離10m以内の区域
③ 急傾斜地の下部から斜面傾度の高さの2倍以内の区域(50mを超えると高さ50m)

② 急傾斜地前傾危険区域

急傾斜地前傾危険区域とは、がけ崩れにより相当数の居住者に危害が生ずるおそれがある急傾斜地と、がけ崩れが助長・誘発されるようになっているため、切土、盛土など一定の行為を制限する必要がある土地で、市民からの要望により神奈川県が指定した区域です。

③ かけ崩れからの避難

土砂災害警戒区域の中にあるときは、避難に関する情報が発表されたときには、ただちに安全を確保することが必要です。
このとき、天候やご自身の状況により、柔軟に行動を変えることができます。次の方法を参考に、適切な避難場所の確保などの準備しておくことが大切です。

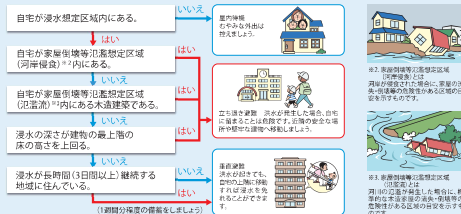
⑥ 避難に関する情報

避難準備・高齢者等避難開始
高齢者や身体の不自由な方など、事前に周囲を要する方は避難を開始してください。その他の方は避難の準備を整えてください。
避難勧告
災害発生が予想される地域の方には避難を勧告するものです。
避難指示(緊急)
対象地域の方は、ただちに避難してください。

⑦ 水位に関する情報

Table showing water level information for Kawasaki City, including categories like 水害警戒水位 (Water hazard warning level) and 警戒水位 (Warning level).

⑧ 状況に応じた避難行動



〈屋外に避難するときの注意点〉
・物ややりや壊れかけの瓦などが、瓦にそでめられる運動靴を履くようにする。
・避難先は遠く取りたい。
・避難所に向かう途中で自身の危険を感じた場合は、避難所に限らず近隣の安全な場所や建物に一時的に避難をする。
・非常持出品(飲料水、食料、貴重品など)は、リュックサックなどに入れ、両手が使えるようにする。
・傘をはずす時水が流れている場所を移動する場合は傘をささず、傘をささる場合は傘をささる。
〈助け合い(共助)〉
・近くにお住まいの高齢者、障害者、妊婦、乳幼児、外国人または外国人者と一緒に避難することが難しい方がいます。日ごろから近所でコミュニケーションをとり、避難の際に近隣のみなさんと声をかけあひ、助けあひから避難しましょう。

我が家の防災メモ

ハザードマップを使って我が家の防災メモを完成させましょう!!

① 自宅の災害リスク

Table for home disaster risk assessment, with columns for flood level (e.g., 浸水無し, 0.5m未満) and risk level (e.g., 軽微, 中等).

② 避難方法

「状況に応じた避難行動」を確認し、避難方法を確認しましょう
(洪水からの避難) (かけ崩れからの避難)
 屋内待機 立ち退き避難 車直避難 屋内待機 車直避難 水平避難

③ 避難場所と避難経路

避難方法が決まったら、避難場所と避難経路を確認しましょう
(避難場所1) (避難場所2) (避難場所3)
※避難場所と避難経路はそれぞれ複数あり、必要に応じて地図に書き込みましょう

④ 非常持出品

非常持出品の保管場所は、家族のみんなで共有しましょう
(保管場所)

⑤ みんなの約束

家族やご近所での約束事を記入しましょう
(ご近所での約束事)

※避難に接続が必要な方など地域で協力しましょう

日頃の備え

① 家庭備蓄の充実

災害時には、ライフライン機能の低下など都市機能の低下が考えられます。このため、各家で最低3日間、出来れば7日間、自宅ですごせる用意をしましょう。
(飲料水) 飲料水は1人1日3リットル必要です。
(食料) お米や乾麺、缶詰など、日持ちするものをなるべく多く用意しておきましょう。
(その他) カセットコンロ(ボンベも忘れずに)、簡易トイレ(汚物処理袋)などを用意しておきましょう。

② 非常持出品チェックリスト

Checklist for emergency items including water, food, medicine, and other necessities.

③ 施設内排水設備の定期的な点検

「雨水流出抑制施設」は大雨の時に雨水を一時的に貯留して下流へ少しずつ流す重要な施設です。落葉や砂が詰まっていると水を排水できなくなるため、普段から点検しておきましょう。
雨水溜りや道路側溝も路面排水を適切に行うための役割を担っています。



ハザードマップの使い方

① 自宅を見つけましょう

自宅に洪水が来ることや、かけ崩れが起こる可能性を確認しましょう。



③ 安全な避難経路を決めましょう

大雨の際に危険となる水路や橋、アンダーパス、浸水の危険がある箇所や土砂災害警戒区域などの場所を確認し、避難経路を複数決めましょう。



⑤ 家族で災害時の対応を話し合ひましょう

大雨の際の行動について、家族と話し合ひ、災害時の約束事を決めましょう。



⑦ 我が家の防災メモを完成させましょう

② 避難する場所を確認しましょう

洪水や土砂災害からの避難方法を確認しましょう。立ち退き避難が必要な場合は、適切な避難先を確認し、大きく印をつけるなどして災害時に備えましょう。



④ 実際に避難経路を歩いてみましょう

家族やご近所の方と一緒に歩いて、危険な箇所がある場合は、避難経路を見直しましょう。



⑥ 学校やご近所について話し合ひましょう

学校やご近所で、災害や避難について話し合ひ、情報を共有しましょう。高齢者など、避難に配慮が必要と思われる方についても、みんなでできることを考え、避難の際に協力しましょう。



風水害時に役立つ情報

① 川崎市防災情報ポータルサイト(川崎市ホームページから)

市内の災害に関する緊急情報、被害情報、避難情報などを掲載します。
日頃からの備えなど、川崎市の防災計画なども紹介しています。
外注時の防災対策についてまとめた「備え。かわさき」ポータルを紹介しています。
過去10年間の浸水実績を公開しています。

② かわさき防災アプリ

川崎市の公式アプリのサービス「かわさき防災アプリ」では、災害時の緊急情報や避難情報などをプッシュ通知で受けられるほか、最新の避難所や各種ハザードマップを見ることができます。

③ メールニュースかわさき

川崎市から、市内の防災、気象、災害等の情報をメールでお知らせします。
配信を希望する方は右記のメールアドレス(携帯番号・スマートフォンURL)宛にEメールを送信してください。

④ 防災行政無線・防災テレビサービス

防災行政無線とは、屋外にあるスピーカーから、市民の皆様へ避難情報や防災気象情報をお知らせするものです。
防災行政無線の放送内容は、電話でも聞くことができます(通常時は啓発放送が流れます)。0120-910-174(通話料なし) 県内の一般加入電話、公衆電話及び一部のIP電話から044-245-8870(通話料あり) 携帯電話、PH.S、県外の一般加入電話/公衆電話から

⑤ 国土交通省 京浜川河事務所 川の防災ページ

多摩川・鶴見川の浸水想定区域、家庭倒壊等危険想定区域、氾濫シミュレーションなどを見ることができます。

⑥ その他

気象庁ホームページで警報・注意報発表の予測を見ることができます。
ソケット(アウタポート: kawasaki_bouso)と、緊急避難メール、地上デジタル放送、ケーブルテレビ、かわさきFM(97.3MHz)でも、情報を発信します。

⑦ お問い合わせ先

Table with contact information for disaster response, including phone numbers for various departments like 044-209-2682 and 044-245-1341.

⑧ 緊急連絡先

Table with emergency contact numbers: 警察 110, 消防 119.

洪水ハザードマップ(中原区版)の変更について

洪水ハザードマップについて、平成30年3月の作成以降、法令の改正などにより記載内容に変更が生じております。ご覧の際は、最新の情報をご確認ください。

①避難情報の変更

災害対策基本法の改正により、令和3年5月20日から避難情報が変わりました。これに伴い、洪水ハザードマップ(情報面)の一部を変更しました。



(情報面)

避難情報と防災関係情報

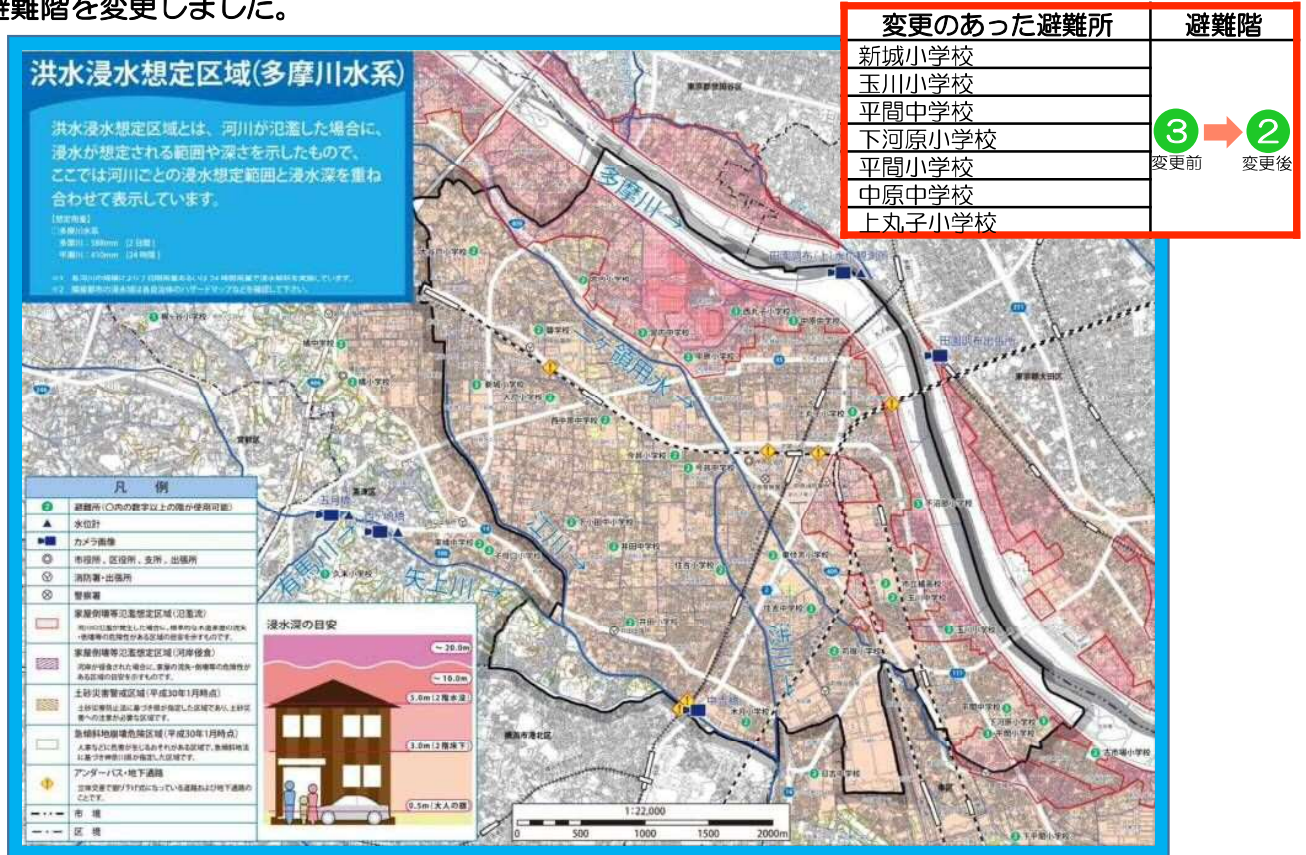
警戒レベル	避難行動等	避難情報等	防災関係情報		
			水位	洪水	降雨
5	既に災害が発生又は切迫している状況です。命を守るための最善の行動を取りましょう。	緊急安全確保 (川崎市が発令)	氾濫の発生 または切迫	氾濫発生情報	大雨 特別警報

＜警戒レベル4までに必ず避難！＞

4	危険な場所から全員避難しましょう。	避難指示 (川崎市が発令)	氾濫危険水位	氾濫危険情報	土砂災害 警戒情報
3	避難に時間を要する人(ご高齢の方、体の不自由な方、乳幼児等)とその支援者は危険な場所から避難しましょう。その他の人は避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難 (川崎市が発令)	避難判断水位	洪水警報 氾濫警戒情報	大雨警報
2	避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認しましょう。	大雨注意報等 (気象庁が発表)	氾濫注意水位		
1	災害の心構えを高めましょう。	早期注意情報 (気象庁が発表)	水防団待機水位		

②避難所の変更

指定緊急避難場所(洪水)の指定基準の見直しにより、令和3年6月8日から一部の避難所の避難階を変更しました。



(地図面)

③土砂災害(特別)警戒区域・急傾斜地崩壊危険区域の変更

土砂災害防止法に基づく「土砂災害警戒区域」・「土砂災害特別警戒区域」及び急傾斜地法に基づく「急傾斜地崩壊危険区域」を神奈川県が指定(変更)しています。最新の区域については、県ホームページをご確認ください。



神奈川県土砂災害
情報ポータル

URL : <https://dosyasaigai.pref.kanagawa.jp/website/kanagawa/gis/index.html>

④水位計・カメラの追加

最新の水位計・カメラの設置箇所については、市ホームページをご確認ください。

URL : <https://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000107830.html>



川崎市ホームページ
水位計・カメラ

○お問い合わせ先

洪水ハザードマップ全般に関すること	建設緑政局道路河川整備部河川課	044-200-2902
避難に関すること	総務企画局危機管理室初動対策担当	044-200-3682
避難所の変更に関すること	総務企画局危機管理室危機管理計画担当	044-200-0337
土砂災害(特別)警戒区域・急傾斜地崩壊危険区域に関すること	神奈川県横浜川崎治水事務所 川崎治水センター	044-932-7211

(令和3年6月)